

縁は異なるもの 味なもの その1

✧ アンドルー・ワイル博士の巻

寺子屋TAO塾代表
正食協会編集委員

波多野 毅

「波多野さん、ワイル博士にマクロビオティックランチをTAOでご用意できませんか？」

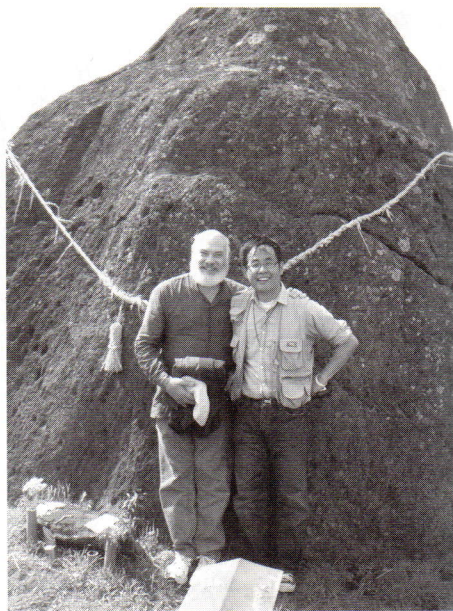
統合医療に取り組む友人からの驚きの電話だった。アリゾナ大学教授のアンドルー・ワイル博士が心身医学関係の学会の基調講演で来日予定なのだが、プライベートで湯布院・阿蘇の小旅行をしたい。については、博士に生命力あるホンモノの素材を使った伝統食を提供してほしいとの依頼だった。

実は博士との出会いは今から、約二十年前に遡る。私は祖母の死がきっかけで、東洋医学やホリスティック医療というものに興味を持った。その日、私は、発足したばかりの日本ホリスティック医学協会主催の講演会を聞きに東京医科大学の教室にいた。そのときの講師が、ホリスティック医療の世界的権威として有名だったワイル博士だったのだ。

まさかその二十年後、私の生まれ故郷で博士と再会できるなど想像もつかないこと。博士は、TAOに来るなり、ご自身の本を見つけて、「サインしようか？」と気さくに声を掛けてくれた。TAOのホームページを見せながら、私たちの取り組みを説明すると、貴方達の「セルフヒーリング&セルフラーニング」や「医食農同源」の理念に強く共鳴するよとエールをくれ嬉しかった。

昼食は、ペトログラフ（岩刻文字）巨石で知られる「押戸石山」に博士一行とピクニック。皆でTAOのお料理講師北里洋子先生の美味しいお弁当に舌鼓を打った。その後、阿蘇の大自然の中で博士と共にしばし瞑想、「That's a JOMON world!!」と博士が叫んだ。博士から「縄文」という言葉が出てくるとは！ 同行したC+F研究所の代表ティム・マクレーン氏も、ネイティブアメリカンのスウェットロジワークショップなどを縄文のピースフルなバイブレーションのあるここを舞台にやってみたいと提案してきた。

山を降りて、TAO農場で梅の木の記事植樹。私が「いつか梅干にしてお贈りしますね」と言うと、「では是非梅焼酎も」とすかさず返されたのにはマイッタ！ 農場の雑穀マンダラガーデンには、縄文の古代米と雑穀のほか、インカのキヌア、アステカのアマランサス、北米インディアン・トピナンプー部族のスタミナ源であった菊芋なども育てている。ワイル博士とこんな楽しい時間を共有できるとは！ 縁は異なるもの味なもの！ これからも、競わず争わず、媚びず隷属せず、気負わず頑張らず、心も身体も伸びやかに、縄文マインドで、天空と大地の間に遊びたい！



ワイル博士と

状況を連帯してつくっていけば、東京の消費者の認識ももつと変わるのでは」
自給農と呼ばれる小さな農業をして、農的な暮らしをしながら、自分の才能を生か



赤字を背負った赤字世代と呼んでいるが、絶望するのではなくて、チャンスの時代と考えて、自分のチャンスを生かしてほしい」